

めぐみイエス・キリスト教会

2021年12月5日(日)第一主日礼拝
週報「通算第586号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌80「あめなる神には」	p. 110
【交読文】	No.14詩篇第37篇	p. 889
【賛美Ⅱ】	新聖歌77「きよしこのよる」	p. 105
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.20「天より来られし」	
【聖書朗読】	使徒の働き13章44節～52節	
【礼拝説教】	《リバイバルと迫害》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌　　栄】	新聖歌63「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎聖書箇所「使徒の働き13章44節～52節」(新約p. 262上段)

13:44 次の安息日には、ほぼ町中の人々が、主の言葉を聞くために集まって来た。

13:45 しかし、この群衆を見たユダヤ人たちはねたみに燃え、パウロが語ることに反対し、口汚くののした。

13:46 そこで、パウロとバルナバは大胆に語った。「神の言葉は、まずあなたがたに語られなければなりませんでした。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者にしています。ですから、見なさい、私たちはこれから異邦人たちの方に向かいます。

13:47 主が私たちに、こう命じておられるからです。『私はあなたを異邦人の光とし、地の果てにまで救いをもたらす者とする。』

13:48 異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を賛美した。そして、永遠の命にあずかるように定められていた人たちは皆、信仰に入った。

13:49 こうして主の言葉は、この地方全体に広まった。

13:50 ところが、ユダヤ人たちは、神を敬う貴婦人たちや町のおもだった人たちを扇動して、パウロとバルナバを迫害させ、二人をその地方から追い出した。

13:51 二人は彼らに対して足のちりを払い落としてイコニオンに行った。

13:52 弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

●ポイント1.「一週間前の安息日の出来事」とは？

※使徒の働き13章42節～43節「神の恵みに留まるように」(新約p.262)

13:42 二人が会堂を出るとき、人々は、次の安息日にも同じことについて話してくれるように頼んだ。

13:43 会堂の集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神を敬う改宗者たちがパウロとバルナバについて来たので、二人は彼らと語り合い、神の恵みに留まるように説得した。

●ポイント2.「パウロとバルナバに命じられたこと」とは？

※イザヤ書49章6節「遠い島々と遠い国々への預言から」(旧約p.1107)

49:6 主は言われる。「あなたが私しのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。私はあなたを国々の光とし、地の果てにまで私の救いをもたらす者とする。」

●ポイント3.「永遠の命にあずかる者とふさわしくない者」とは？

※第Iヨハネ5章10節～13節「神の御子を信じる者・持つ者」(新約p.484)

5:10 神の御子を信じる者は、その証しを自分のうちに持っています。神を信じない者は、神を偽り者としています。神が御子について証しされた証言を信じていないからです。

5:11 その証しとは、神が私たちに永遠の命を与えてくださったということ、そして、その命が御子のうちにあるということです。

5:12 御子を持つ者は命を持っており、神の御子を持たない者は命を持っていません。

5:13 神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠の命を持っていることを、あなたがたに分からせるためです。

◎先週の礼拝メッセージの概要【パウロのメッセージそのⅢ】

《パウロはここで「兄弟たち」と呼びかけています。最初は「イスラエル人の皆さん。並びに神を恐れる方々」、真ん中は「アブラハムの子孫である兄弟たち。並びにあなたがたのうちの神を恐れる方々」と、呼びかけました。そして、「このイエスを通して罪の赦しが宣べ伝えられているのです。この方によって、信じる者はみな義と認められるのです。」と教えたのです。

聴衆の反応は大きく二つに分かれました。正統的ユダヤ人は、律法と昔の人の言い伝えを守ることによって、義とされることを堅く信じており、憤慨し反発します。そして、律法を完全に守ることは非常に難しいと、常日頃から感じている改宗者たちにとっては、まさに朗報となるわけです。

この時点では、「ローマ人への手紙」はまだ執筆されておらず、パウロはすでに、主イエスを信じる事だけが義とされることを確信しています。

次に、650年前に書かれたハバクク書を引用し、注意を促しています。『見よ、嘲る者たち。驚け。そして消え去れ。私が一つの事をあなたがたの時代に行なうからだ。それは、あなたがたには信じがたい事である。』

つまり、神様の救いが異邦人に向けられることを示していて、その事実を、ユダヤ人たちは信じる事が出来ない、と言うことです。

パウロが奨励の言葉を終わると、多くの人々が、次の安息日にも同じことについて話してくれるように頼みました。パウロのメッセージを聞いた彼らは、心を打たれたのです。いくら律法や昔の人の言い伝えを守ったとしても、心の中にある罪意識は消えない事を、彼らは知っていたのです。

集会が終わると、ディアスポラのユダヤ人と神を敬う改宗者たちが二人の後をついて来ます。そして伝承では、夜遅くまで語り合ったと言われています。この時、多くの者が救われました。パウロとバルナバは、神の恵みに留まるように説得します。「神の恵みに留まる」こととは、主イエスに留まることです。主イエスの語られたみ言葉に留まることなのです。私たちは、常に神様の恵みの中に、主の愛に留まり続けるべきなのです。》

◎お知らせ

※第二主日礼拝は12月12日(日)午前10時から教会で行ないません。

※12月26日は感謝礼拝。2022年1月2日の礼拝はお休みとなります。